

小林製薬株式会社 2023年12月期第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q：インバウンドを除く国内事業の伸長率について、7-9月と10月の状況をそれぞれ教えてほしい。？

A：7-9月は対前年▲3.4%で想定よりは弱かった。10月はインバウンドの実績が出ていないため詳細な数値は現時点ではわからないが、インバウンドを含むトータルでは対前年+18%伸びているので、おそらくインバウンドを除いても前年は超えていると思われる。

Q：10月の国内事業が好調な要因は？

A：インバウンド需要の新製品や製品値上げが順調に推移し、広告費を増やして既存品も回復傾向にある。

Q：10-12月で、インバウンドを除く国内事業が目標とする3%成長にまで回復する可能性は？

A：広告費をしっかりと使って新製品・既存品ともに順調に伸長すれば十分可能性はある。ただし、今年は暖冬予想なので、カイロの下振れリスクがどの程度顕在化するか次第。

Q：通期の国内事業の売上1,294億円の達成見込みは？

A：暖冬によるカイロの下振れリスクはあるものの、十分達成できると見ている。

Q：1-9月計で営業利益はどのくらい上振れたのか？国内外で分けるとどんなイメージか？

A：約10億円上振れた。国内と国際で半分ずつくらい。

Q：7-9月スキンケアや日用品がプラスに転じている要因は？

A：新製品が順調に推移しており、上期苦戦した芳香消臭剤も市場環境が良くなってきているため。

Q：10月に買収したFocus社は、営業利益にどれくらいインパクトを及ぼすのか？将来の目標は？

A：第4四半期から連結するが、のれん償却額は現在精査中なので、具体的な影響額は申し上げられないが、当面は償却影響が大きく、営業利益ベースではマイナスに効いてくると見ている。将来の目標は、2022年の売上が30百万ドルだが、2030年には2倍の60百万ドルを目指す。

Q：処理水問題が中国ビジネスやインバウンドに及ぼす影響を教えてください？

A：KOLを活用したライブコマースが予定通り出来ておらず、オンラインの売上を中心にマイナ

ス影響がある。足元は一部再開しているのので、4Q少し戻ってくる。4Qは想定より下でみている。インバウンドにはあまり影響はない。

Q：インバウンドの7,8,9月と足元10月の売上は？

A：7月が6.8億円、8月が6.6億円、9月が7億円。10月の実績はまだ出ていないが、おそらく9月と同水準。

Q：来年の海外成長の見通しは？

A：10%以上の成長を目指したい。

Q：原材料値上がりの中で影響を受けているものは何か？

A：プラスチックやアルコールなど、ナフサ高騰による影響が全体の約6割を占めている。カイロの原料である鉄粉や活性炭の影響が約2割を占めている。残りは紙や天然原料など。

Q：原材料値上がりの影響が1-9月で12億円となっているが、これは想定と比べてどうか？通期ではどのくらいの影響額を見込んでいるのか？

A：期初は通期で26億円の影響額を見込んでいたが、現時点では17億円程度を見込んでおり、想定よりも良くなっている。一方では、期初20億円を見込んでいたコストダウンが現時点では13億円程度を見込んでおり、それらが相殺される見通し。

Q：製品値上げの来期見通し

A：今期は期初10億円の利益貢献を見込んでいたが、18~20億円まで行く可能性がある。来期も国内外で製品値上げを進め、対前年で15~20億円程度の利益貢献を目指したい。

Q：

A：

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではございません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。